

アドビソフト入稿時の注意

(Adobe) Illustrator/Photoshop

Illustratorでの印刷用データ 入稿時のご注意をご案内します。

出力見本としてPDF・JPEGなども一緒に入稿して下さい

文字化け、画像抜け、色見などチェック作業をする際に必要となりますので必ず添付して入稿して下さい。

希望の仕上がりサイズで作成されていますか？

基本、拡大縮小の作業は行いません。拡大縮小をご希望されるお客様は、各種効果やデザインのバランスなどが変わる恐れがございます。予めご理解の上ご了承下さい。

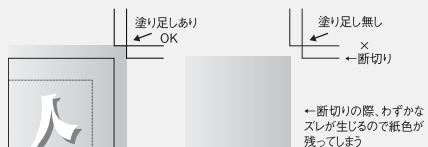
トリムマーク(トンボ)は正しい位置に作成していますか？

トリムマーク(トンボ)は、仕上げ断裁する際の目安となります。位置ずれ、サイズ違いなどありますとトラブルの原因になります。

塗り足しは大丈夫ですか？

印刷後、ご希望のサイズに断裁いたしますが、断裁時のわずかなズレが生じます。塗り足しがないと紙の地の色が見えてしまう可能性がございます。

■塗り足し
仕上がりサイズより3mm外側に配置して下さい。



文字やロゴは、断裁位置から3mm以内に配置していますか？

印刷後、ご希望のサイズに断裁いたしますが、断裁時のわずかなズレが生じます。断裁位置付近に文字が配置されている場合、文字が切れてしまう可能性がございます。

■文字のレイアウト位置(文字切れ)
仕上がりサイズより3mm内側に配置して下さい。

入稿データは必ずアウトラインをかけて下さい

フォントを含んだデータを、作成したパソコンと異なる環境で開いた場合、文字が正しく表示されないという問題が起こります。(別書体に置き換え、文字間が変わる、文字化け、など)このような事態を避けるために「文字のアウトライン化」という作業を行います。フォントをアウトライン化することにより、図形化され、文字の形を崩すことなく印刷が可能となります。

カラーモードはCMYKになっていますか？

印刷はCMYKの4色のみ、パソコンのディスプレイはRGBで色を再現します。データをRGBで作成された場合、印刷時CMYKに置き換えられ、色見が大きく変わる場合がございます。ご入稿の際は、必ずCMYKでカラー調整をお願いします。

画像解像度は最低300dpi以上ありますか？

画像解像度とは「一つの画像をどれだけの数の点で表すか」、つまり「きめの細かさ」を表す数値です。印刷に必要な画像解像度は、実際に配置している大きさを最低300dpi(推奨は350dpi)です。72dpiの場合、パソコンのディスプレイでは綺麗に見えますが、実際に印刷するとカクカクしてしまいます。

リンクで配置されている画像の添付は大丈夫？

ご入稿の際は、リンクしている画像も一緒に送っていただく必要がございます。Illustratorファイルとリンク画像は、同じフォルダの同じ階層に入れて下さい。リンク画像が別のフォルダに入っている場合、リンク切れを起こしてしまいます。

※リンク画像には、ai形式、Illustrator eps形式、pdf形式のデータは使用しないで下さい。文字化けや画像縮小、線幅不具合のトラブルの原因となります。その場合は、埋め込み処理をして問題がない事を確認し、埋め込んだ状態で入稿して下さい。



余分なレイヤーやロックなど、ありませんか？

- レイヤー
「隠す機能」を使用して、余分なレイヤーが残っている場合、予期せぬエラーで表示されて印刷される可能性がございます。そのようなトラブルが発生しないように不要なオブジェクト、レイヤーは、必ず削除して下さい。
- ロック機能
ロックされているオブジェクト・レイヤーがある場合、不具合が発生する恐れがあり、必ず全てのロックを外して下さい。データチェックの時にロックは全て外して印刷いたしますので、印刷しないつもりでロックするのはトラブルの原因となります。※レイヤーのロック、オブジェクトのロックの両方です。

ヘアライン(細い線)は線で作成していますか？

- ヘアライン(線)
線が「塗り」の状態では表現されているもの。画面上やご自宅のプリンターでは確認できますが、印刷にはほとんど確認されません。必ず、線に塗り色を設定して0.25pt以上の太さで作成して下さい。※薄い色ですと0.25ptでも見えない場合もございます。

目安線は削除していますか？

校正時に、仕上がりサイズを明確にする為、サイズの枠線を入れる事がありますが、入稿時は、必要のない線は必ず削除して入稿して下さい。そのまま印刷されます。

Illustratorのパターンスウォッチは分割処理して下さい

パターンスウォッチはそのままですと印刷処理時にデータが上手く処理できずイメージとは違った状態で印刷されてしまいます。必ず「オブジェクト」→「分割」をして下さい。

オーバープリントについて

印刷物をつくる時、色を重ねて印刷する事をオーバープリントといいます。トラブル防止のため、オーバープリントのチェックは外して下さい。※使用を希望される場合は必ず旨をお伝え下さい。



スミベタ(K100%)とリッチブラック

パソコンの画面上では同じ色に見えますが、インクの量が異なるためそれぞれ違った黒で印刷されます。スミベタは、余分なインクを重ねないので文字が潰れる事も無く、細い文字などに適しています。リッチブラックは綺麗な黒が表現できますが、非常に乾きにくく、裏写りが発生しやすくなるため、乾かす時間が必要ですので納期が延びる可能性もございます。

スミベタ	C0%	M0%	Y0%	K100%
	△速乾性があり細い文字などに最適			
リッチブラック	C40%	M40%	Y40%	K100%
	○綺麗な黒ですが、細い文字などには適さない			
4色ベタ	C100%	M100%	Y100%	K100%
	×色が乗りすぎて乾かない			

黒に限らず、色の配合はCMYKの総量が250%以下になるように設定して下さい。

特殊効果・透明機能を使用する場合

特殊効果機能(透明/ドロップシャドウなど)を使用した際の印刷時のトラブルについて

- ・透明、ドロップシャドウ、ぼかしなどの機能を使用した場合
- ・Photoshop上で背景の一部、透明化(消去)しているpsd
- ・pngデータを使用した場合、透明化されている画像などを埋め込んでいる場合

以上のような効果を使用している場合、正常に印刷されない場合がございます。特殊効果を使用する場合は、Photoshopでデータ統合したものをご利用下さい。できる限りIllustratorではこの機能は使用しないようお願いいたします。使用する場合は、ラスタライズ(画像化)が必要となります。※ラスタライズは、「オブジェクト」→「ラスタライズ」でお願いします。「効果」→「ラスタライズ」では、ドロップシャドウなどの透明設定が残ったままになります。

Illustrator と Photoshop の色の違い

Photoshopで作ったデータをIllustratorで使用する時の注意点です。同じ色配合の設定でもIllustratorとPhotoshopの色は同じではありません。印刷時に段差(色の濃さの違いなど)が出る場合がございます。このような場合は、Photoshopで両方の背景を作成して下さい。

余分なポイントやフォントが残っていませんか？

文字ツールで画面をクリックし、何も入力せずに別のツールに切り替えたり、バスのアンカーポイントの消し忘れなどで残ってしまった点を、「孤立点」といいます。孤立点が残ったまま入稿されますと、印刷時のエラーの原因となることがございます。必ず孤立点は削除して下さい。